



一般社団法人
富山県作業療法士会
ニュース

令和元年度 No.1 第130号 令和元年6月26日

発行 一般社団法人
富山県作業療法士会
会長 齋藤 洋平
印刷 (株) チューエツ

富山県作業療法士会ホームページ <http://toyama-ot.sakura.ne.jp>

富山県作業療法士会会員数：663人

自動車運転支援に理解を持つOTが増えることを願います☆

富山西リハビリテーション病院 吉村 裕子



当士会では、日本作業療法士協会からの要望で、2018年2月3日に「運転と作業療法士特設委員会」が立ち上がりました。

本委員会の目的は、①OTは運転支援ができる職種であることを運転支援関係者（公安委員会、教習所、行政）に知ってもらう、②県内OTが実施する運転評価の統一を図る、③県内OTが運転に関する知識を得る機会を作る、④運転評価に関するネットワークを作り、評価ニーズのある方が確実に評価を受けることができるようにする、⑤県下での運転支援ニーズを把握することです。

会員にアンケート調査を実施した結果、運転支援介入有無が2極化し、各施設単独で運転支援に関わ

ることが多く、他機関との連携が不十分であることが明らかになりました。

2018年12月に公安委員会の顔合わせを行い、OTの紹介、高次脳機能障害、OTによる運転支援の内容についてお話してきました。今年度は、運転支援関係者と情報交換会の機会を設ける、県内OTに道路交通法や、評価・練習の流れを発信していけるよう、具体的な活動を検討していきたいと思っています。

ちなみに当院は、約1年半で運転支援に介入した患者は約300名で、OTは身体・高次脳機能面、運転技能面（DS7000R、実車）に携わっています。

勤務地の状況によって、運転ニーズに差があると思いますが、OTとして理解を深め、情報共有を図っていきましょう！宜しくお願いしま〜す(^^)

自己研鑽のきっかけ作り

かみいち総合病院 能登 健司



富山県作業療法士協会の理事を拝命してから早いもので1年が経ちました。ここ数年は教育部長として活動させて頂いていましたが、理事という役割を頂いたことにより、組織とは何か、理想の作業療法士とは何か、をより考えるようになりました。未だに理事という大役に応えられているかどうか不安を感じますが、1つ1つ丁寧に課題に取り組んでいきたいと思っています。

さて、理事としては教育局を担当しています。前年度までは教育部のみでしたが、今年度からは生涯

教育部、MTDLP部（仮称）の2つに編成し取り組んでいきたいと思っています。皆さんご存知の通り、協会の学術的研鑽を支援し、専門性を向上するために、2003年スタートした生涯教育制度ですが、5年ごとに見直しが行われ、時代の流れに合わせて制度改定が行われてきました。その経過を追うと幅広い知識と高い専門性が、今後、社会的にも必要だということがわかってと思います。詳しい内容は日本作業療法士協会ホームページの「生涯教育制度改定2018」改定の概要に書いてありますので、目を通して下され。どうしても職場だけの環境だと経験や知識が偏ってしまいがちですが、少し違う領域に触れることで自身の立場や考えを見直す良い機会

にもなると思います。そのきっかけとして県士会単位の研修に是非とも参加してもらえたら嬉しいです。

またMTDLPに関して、富山県は基礎研修の履修率が高い反面、事例検討や登録は低く推移していま

す。これを少しでも打開していけるよう取り組んでいきたいと思っています。

何か不明な事が点あれば、お気軽に連絡下さい。皆さんと共に県士会を盛り上げていきましょう。

第18回富山県作業療法学会を終えて

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 桐山 由利子

平成最後の3月17日、春間近の肌寒い天候のもと、サンシップとやまにて第18回富山県作業療法学会を無事盛会のうちに終えることができました。

学会テーマを、「OTの強みを活かした発信～気づく・伝える・繋がるをもっと！～」と決め、赤尾智子学会長のもと準備をすすめてまいりました。士会員の皆様には23題の演題発表に183名の学会参加と、学会へのご理解ご協力を頂けたことに心から感謝しております。また理学療法士、看護師、ケアマネージャー、介護福祉士、福祉用具専門相談員の方々10名の参加もあり、この方々と作業療法の取り組みや想いを共有できたことに意義深いものを感じました。

プログラムは金沢福祉用具情報プラザ館長 安田秀一氏による特別講演から始まりました。



「OTの強みを活かした発信～気づき・伝え・繋がるために～」と、運営委員の想いに繋がったご講演を頂きました。ランチタイムには県士会員による技術講座を開きました。澤木桂子氏の「福祉用具相談支援システムの相談から得る気づき」、藤井暁子氏の「第3回三県合同MTDLP事例検討会in富山県 介護予防でMTDLPは使えるか？」のいずれも、熱心に受講する参加者の姿がありました。これら講演・講座を通し、参加者各々のスタンスからの気づき方・伝え方・繋がり方を学べたなら幸いです。



近年、介護予防・日常生活支援総合事業への参画が始まり、当県士会においても活動方向を模索しているところです。そこで地域活動の紹介として、介護予防教室や出前講座での取り組み概要を地区別にファイリングしたもの、作業活動として行った作品等を展示しました。午後からの演題発表においても、ケース報告や基礎研究だけでなく連携を考えた多くの演題がありました。これらより、富山県においてはOTが地域生活の支援者として求められていることが実感できました。

今回は学会後にアンケート回答をご協力頂きました。この結果から、多くの方に満足頂けたことが分かりました。一方、運営に不満を感じた事項にも気づくことができました。皆様の声を真摯に受け止め、次学会担当の砺波地区メンバーへ捧を繋ぎたいと思います。



運営委員・スタッフの皆様、ありがとうございました！！

富山県作業療法学会ポスター発表を終えて

南砺市訪問看護ステーション 石崎 麻貴

H31年3月17日、富山県学会にてポスター発表をさせていただきました。

<発表のきっかけ>

以前、回復期病棟の同僚たちと「入院中のリハが退院したあとの患者さんの生活に役立っているか、その後どうなっただろうか？といつも気になる」と話していました。昨年異動で回復期病棟から訪問看護ステーション勤務となり偶然にも両方の部署で同一の利用者様に対してOTを提供し、訪問卒業まで関わる機会を得ました。これを症例報告としてまとめればその疑問の答えになるんじゃないか？と考えました。その頃、OTの山田剛先生の研修会に参加し「2025年にむけて実践すべきリハビリテーションとしてリハ職が実践するマネジメントと活動と参加へのアプローチ」として退院時にすべきリハや生活期で行うリハについてのお話を聞きました。そこで再び、自分が病院や訪問で実践してきた内容を振り返ることは有意義なのではないか、発表してみようと思いました。しかし、特に目新しいアプローチを行ったわけではなく、よくある介入での訪問リハ軽快終了であり、新規性に乏しく発表に値するだろうか？とも悩みました。そして、私自身2歳と4歳の小さい子供がおり、できるだろうか？と不安もありましたが、職場の皆さんの協力もあり「自分のできる範囲で自分のできることをとりあえずやってみよう」と思い演題に応募しました。

<ポスター制作を通して>

症例報告を作る際、この介入はよかった、もっとこうすればよかったという部分が沢山出てきました。また、関連の文献を調べるよいきっかけとなりました。日々の業務では流れていってしまう

部分を振り返る事ができ良かったです。

<発表の緊張と発信の大切さ>

学会発表はやはり激しく緊張し、発表後は謎の背中痛で腰が抜けたようになり（笑）しばらく椅子で動けずいました。でも、発表を聞いてくださった方々からの言葉はとてうれしいものでした。また、「一つ頑張った」ととても充実した気持ちになりました。「発信」は今県学会のテーマでもあり、特別講演の安田秀一先生もOTとして発信するチャンスを大切にしようと話しておられました。今回、発表を通じて、自分のできる範囲での発信を一つ行い頑張ったことは自分の成長になったはず、何かの貢献になったはずと信じて、また日々の業務を頑張りたいと思います。

令和2年2月の県学会は砺波地区での開催です、たくさんの演題をお待ちしています！



2018年度富山県ロボットニーズ・シーズ連携協調協議会活動報告

独立行政法人国際協力機構JICA 渡邊 雅行

本事業は、2018年5月に一般社団法人日本作業療法士協会が厚生労働省委託事業「介護ロボットのニーズ・シーズ連携協調協議会全国設置・運営業務」を受託し、全国で50のロボット協議会が立ち上がった。富山県作業療法士会でも齋藤会長を委員長とする富山県ロボットニーズ・シーズ連携協調協議会（以下、富山県ロボット協議会）が設置され、単年度予算で4回協議会およびそのための事前事後の打ち合わせ会議等を開催し、2月24日に最終報告を行った。

ロボット協議会の役割は、介護業務上の課題の明確化、課題解決のための新規ロボットのニーズを明らかにし、アイデアをすることである。全国の協議会は一般枠と推薦枠があり、前者は新規ロボット等に適した評価方法や機能の提案まで、後者はシミュレーションを実施した上で提案を行うことであった。富山県ロボット協議会は、一般枠で活動し齋藤委員長のもとニーズ側として作業療法士（以下、OT）5名、シーズ側2名、そして2名のプロジェクト・コーディネーターで構成された。

プロジェクト・コーディネーターは、富山大学准教授の中林美奈子先生と石川県リハビリテーションセンターの高橋哲郎先生で、中林先生にはインタビュー等の調査結果から課題を整理しニーズの明確化等、そして、高橋先生にはロボット機能のアイデア抽出等でご指導いただいた。具体的には、富山県ロボット協議会は、高齢者のアクティビティを引き出す「外出準備サポートロボット」を提案した。その裏付けとして、ニーズ調査より居宅要介護高齢者のアクティビティを維持向上するためには、外出や交流が不可欠であることが明らかになった。したがって、「よそ行きの格好に着替える」という行為を支援することで、居宅要介護高齢者の外出・交流行動を促すことを考えた。「外出準備サポートロボット」には、①身体計測機能（姿勢や運動の多方向から撮影）、②クローゼット機能（既存の洋服の登録）、③リフォーム機能（サイズの合わない洋服の型紙作成）、④コーディネーター機能（洋服を選択しアバター作成）の機能を考案した。

他の協議会では、介護負担の軽減を目的とした

移乗移動、排泄、業務支援、コミュニケーションや見守りのためのロボットが提案されたが、しかし、富山県では大型ロボットにはこだわらず、高齢者の意思を尊重し、家族や介護職が高齢者と積極的に関わるモチベーションを高めることを主眼にした。「外出準備サポートロボット」のアイデアは、更衣動作支援ロボットの構想から、どこまでロボットに機能をもたせるか、という観点で委員間の意見交換に多くの時間を費やした。人工知能（AI）により、コーディネートやコミュニケーションもロボットにより提案できるが、あえて、そのような機能は付加しなかった。つまり、高齢者本人の意思や家族との会話のなかで、どのような装いで出かけるかを決定していくことが、本人のQOLや満足につながると考えた。

今回の事業を通して、OTは高齢者の気持ちに寄り添うことを再確認することができた。2019年度もロボット事業が継続されるので、クライアントの意思を尊重するロボットを提案したいと考える。関心のある県士会会員諸氏はぜひお問い合わせ願いたい。

なお、2018年度全国および富山県ロボット協議会の報告書は、厚生労働省のホームページに公開されており、詳細についてはご覧ください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000212398_00005.html



介護ロボット最終報告会
(右より、コーディネーター中林先生、齋藤委員長、渡邊)

日本作業療法士協会と富山県作業療法士会のこれから

南砺市民病院 齋藤 洋平

私たちの職能団体として、日本作業療法士協会と都道府県士会がありますが、それぞれの執行部が年に何度か集まる「47都道府県委員会」というものがあります。

今年度第1回目が4月13日から14日まで開催され、「臨床実習指導者要件」「精神科作業療法」「地域活動」などについて話し合われました。

今回は、それらに対する協会と県士会の同行や計画について報告させていただきます。

臨床実習指導者は、2020年度の入学生より、「実習指導者は、理学療法、作業療法に関し相当の経験を有する理学療法士、作業療法士とし、免許を受けた後5年以上業務に従事した者であり、かつ、厚生労働省が指定した臨床実習指導者講習会等を修了した者とする。」と改定されました。これは、再三、作業療法士協会が改正を訴えていたにも関わらず、理学療法士養成校における不幸な出来事があり、国会等にて議論されたことが発端となっています。今年度、養成研修会が開催される士会もありますが、富山県士会では、開催に向けて講師などを担当していただく「世話人」の養成や調整を図っていきたいと考えています。精神科作業療法については、精神科自身の変革があったものの、それに対応できず、漫然とした作業療法が提供されている所が多くあるとの課題から、ここ最近、フォーカスされてきた領域です。診療報酬上、他領域との格差があり、精神科の作業療法士が、病院外に出ることが難しく、様々な事業や連携が進まない問題もあります。実際、地

域には、精神疾患が併存している方が増えており、精神科作業療法の知見が求められています。したがって、精神科の作業療法士自身が、現状を理解し、地域に関心を持つことを第一歩とし、MTDLPへの参加促進、分野を問わない研修会の企画などを進めて行かなければなりません。

地域活動には、地域ケア個別会議や新総合事業が知られているところですが、他にもたくさんの事業があります。地域毎の課題に応じた事業が進められており、それぞれの地域性が色濃く反映されます。このため、作業療法士が受け身ではなく、行政や地域包括支援センター、地域住民と自らが連携を求めていく姿勢が必要となります。

2019年2月に、富山県では地域リハビリテーション体制が改定され、地域包括ケアサポートセンターや協力機関が作られ、地域活動の推進が図られると共に、行政や住民との連携が益々求められるようになってきました。また、対応できる人材育成については、各種県士会事業はじめ、理学療法士会、言語聴覚士会とのリハビリテーション専門職協議会にて図っていく予定です。

これから、作業療法士に求められるのは、日本作業療法士協会との連携、同調しながら、自ら周囲のニーズに応じた事業を開発していきける姿勢ではないでしょうか。目の前の患者や利用者には作業療法が提供されるだけでなく、作業療法士の新たな活躍の場を作って行けるよう進めて行きたいと思います。



白石整形外科は昭和46年に氷見市初の整形外科医院として開設された病院で、病床19床を持つ有床診療所です。診療科目は整形外科、麻酔科、神経内科、リウマチ科、リハビリテーション科となっており、近年では疼痛の軽減を求める声の多さから、ペインクリニック診療を中心に力を入れている病院です。また東洋医学などにも目を向け、患者様に最適の医療を提供できるよう日々尽力しています。

当院のリハビリテーションセンターでは理学療法士2名、作業療法士1名、按摩・マッサージ師1名の計4名が在籍しており、外来・入院共に整形外科疾患に対する運動療法と物理療法を中心にリハビリテーションを行っています。またどのような疾患・症候にも対処できるよう、従来の運動療法・物理療法のみならず新しい技術・知識をセラピスト各々が積極的に学んでいます。

話は変わりますが日本は現在、超高齢化社会となっています。これは氷見市も例外ではなく、2015年時点で高齢化率36%と全国平均と比べても非常に高い高齢化率を記録しています。同時に核家族化による高齢者のみの世帯や、老老介護世帯が増加しており、高齢者の抱える問題が複雑化し、異常の発見が困難となっている現状があります。また氷見市は漁師町として有名ですが、それ以上に農家世帯が多く、若い頃から高齢者になった現在まで農作業をしている方が多いという特徴があります。農作業は生きがいとして出来る一面もありますが、同時に農作業中の怪我や転倒、また長年の農作業により慢性的な疼痛を抱える高齢者が非常に多くおられます。

これらのことに対応するため、患者様の日常生活の様子や悩みを積極的に聴取し、患者様の生活の中にある問題点を明確にすると同時に、具体的な支援についての説明や話し合いを重点的に行っています。合わせて、健康でその人らしい生活を無理なく維持していただけるよう、疾病予防・介護予防のための指導にも力を入れており、自主訓練指導や百歳体操への参加を積極的に促しています。さらにペインクリニックの診療を行っている当院では慢性疼痛ガイドラインを参考に、疼痛緩和を目的としたリハビリテーションの質を高めて行けるよう医師・セラピスト共々試行錯誤しながら業務に当たっています。

当院リハビリテーションセンターは平均年齢が比較的若く、技術・知識共にまだまだ十分ではありません。もし関わる機会の方がありましたら、なにとぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。





富山医療生活協同組合 水橋診療所
通所リハビリのびのび

位寄 浩平

「水橋福祉ネットの
紹介」

会員の皆さん、こんにちは。富山県リハビリテーション病院の丸池さんからバトンを受け継ぎました。私からは、自分が勤務している地域で取り組んでいる「安心して住み続けられる福祉のまちづくり」をコンセプトに挙げた「水橋福祉ネット」について紹介したいと思います。

「水橋福祉ネット」は、富山県富山市水橋周辺地域における福祉関係事業所のネットワークとして2007年4月に活動が開始となりました。初めは6事業所で構成していましたが、年々、協力事業所数は増加し、現在は18事業所での構成となっています。協力事業所は、福祉関係事業所にとどまらず、地域の飲食店や洋服店等もあり、地域全体へと広がりを見せています。活動目的は、「安心して住み続けられる福祉のまちづくりの一端を担うこと」であり、毎月各事業所が集まって、近況を報告し合い課題を共有したり、活動計画を立てたりしています。活動内容は、まちづくりに何が必要かを考えながら計画しているため、地域住民を対象とした認知症寸劇や講習会、作品展、祭りのボランティア等、多岐にわたっています(写真1)。水橋福祉ネットでは、毎月の会議で、介護報酬改定に関することや、困っている事例に関する

ことなど、様々なことが議論されています。それぞれの事業所内だけで問題を抱えず、多事業所と共有することで解決策が出ることもあり、多職種が関わっていることの強みを感じています。「まちづくり」を考えていく際も同様であり、まちづくりという同じ目的をもつ中で、多職種や多事業所がそれぞれの専門性や特性を發揮して様々な視点で意見を出し合うことが重要となります。最近では、洋服店経営者が、水橋福祉ネットの活動を知り、服屋として地域に役立つことがあるのではないかと考えて参加してもらえるようになりました。安心して住み続けられるまちをつくるには、1つの職種や事業所だけでは成立しません。地域の課題は、地域全体で取り組むことが重要となります。水橋福祉ネットは、発足して約12年となるが、「安心して住み続けられるまちづくり」には課題が山積みです。まちづくりに何が必要かを考え、活動を継続していくことが、住みやすいまちづくりへの一歩となっていると感じています。

ご一読頂きありがとうございました。次回は、杉野脳神経外科病院の深山さんにバトンを渡したいと思います。



入善老人保健施設こぶしの庭

谷口 早紀

県士会会員の皆様こんにちは。入善老人保健施設こぶしの庭で勤務しております谷口早紀です。作業療法士となり今年で2年目です。前回、富山西リハビリテーション病院の大谷奈央さんからのバトンを受け、今回コラムを担当させていただくことになりました。

当施設は医療法人社団藤聖会からなっており、老健施設の算定要件では、加算型を算定してい

ます。施設では、在宅等へ退所していただくことを目指す施設基準である、在宅復帰率の向上を目標に、在宅強化型へ上がることが出来るよう力を合わせています。

最近では、認知症高齢者や一人暮らしの高齢者が増加している傾向にあります。そのような地域での生活に不安を抱える高齢者の方々とそのご家族が、安心して生活していただくためにはどのようにすれば良いか考え支援しています。在宅復帰支援指標のひとつである、入退所前後訪問指導の面では、実際に利用者様の自宅へ向かい、自宅環境の調整を行っています。手すりの位置や屋内外の段差解消・設置の提案、家具や扉等の設置方法の検討等をさまざまな職種が

利用者様とご家族様と共に考えます。利用者の方々が在宅へ戻った際にいきいきと楽しい生活を送っていただけるよう、利用者様それぞれに合った目標を立て取り組んでいます。

当施設には私を含め、OT 4名、PT 4名在籍しており、一般病棟、認知症専門病棟、通所リハビリがあります。私は入所の一般病棟に所属しています。病院や家庭から来られた利用者様が、約3ヶ月の長期に渡って関わることで入所時困難だったことが徐々に出来るようになっていく過程を利用者様と一緒に感じる事が出来る際にはやりがいを感じます。また、長期間関

わる中で利用者様のことをよく知ることが出来、信頼関係を築くことが出来た瞬間にはとても嬉しく思います。しかし、利用者様やそのご家族様が理想とする状態に近づけることや、利用者様1人ひとりの特徴を引き出すことの難しさを痛感した際には自分の未熟さを感じます。利用者様の地域生活に沿ったより良いリハビリを提供出来るよう、知識・技術共に向上出来るよう精進していきたいと思ひます。

最後に、次のボタンは「魚津緑ヶ丘病院」の渡辺啓太さんへ渡したいと思ひます。

身体障害部会研修会

テーマ：対象者の大切な作業を実現する作業療法実践と目標設定

～作業療法士に必要な知識と技術～

講師：齋藤 佑樹 先生（仙台青葉学院短期大学 リハビリテーション学科 准教授）

日時：令和元年9月22日（日） 10:00～15:00（受付開始9:30～）

場所：済生会高岡病院 第1会議室

参加費：会員 4,000円 非会員 8,000円 学生 1,000円

今、私たちに改めて求められている「対象者の大切な作業の実現」。

そのために必要な知識や技術を一緒に勉強しましょう！

申し込み：申し込みQRコードよりお申し込み下さい。

申込締切：令和元年9月17日（火）

問い合わせ先：富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

中林 亜沙美 Tel: 076-438-2233 Fax: 076-437-5390

E-mail: ot3@toyama-reha.or.jp



障害老人部会研修会（認知症に関する研修会）

テーマ：「認知症の人に対する作業療法 - 急性期から地域までの作業療法士の役割を考える -」

講師：松下太氏（森ノ宮医療大学教授 作業療法士）

内容：認知症は進行疾患であるため、各ステージにおいて作業療法アプローチは変化します。今回は各ステージにおける認知症の人に対する作業療法を整理し、今後の課題についてふれさせていただきます

日時：令和元年10月6日（日） 9:30～12:30（受付開始9:10～）

場所：高岡市ふれあい福祉センター

参加費：会員2,500円 非会員3,000円 学生500円（定員約60名）

※「認知症作業療法委員会アップデート研修（応用編）」が、同日午後、同会場にて行われます。

募集、当日の受付は障害老人部会研修会とは別になりますのでご注意ください。

窓口・申し込み先：金沢医科大学氷見市民病院（担当 菅澤 大介）

FAX: 0766-74-2333 E-mail: s-daisu@kanazawa-med.ac.jp

（所定用紙以外でFAXする場合は「リハビリ 菅澤」を明記してください）

申込締切：令和元年9月26日（木）

※9月26日前でも定員になりしだい締め切りとさせていただきます。

発達障害部会研修会

テーマ：「青年期・成人期の自閉スペクトラム症者への支援」
 内容：生活・就労面などの困りごとへの対応や具体的な支援方法
 講師：岩永 竜一郎氏（長崎大学大学院教授 医学博士 作業療法士 特別支援教育SV）
 日時：令和元年7月27日(土) 9:30～15:00（受付開始9:00～）
 場所：富山医療福祉専門学校 参加費：半日2,000円 1日3,000円
 申し込み：①URL <https://goo.gl/forms/fVxKL8tSrsS4W8gW2>
 ②QRコード
 申込締切：令和元年7月12日（金）
 問い合わせ先：放課後等デイサービス キッズルーム たまご 原崎 美紀
 Tel:076-435-2882 e-mail:hattatukenshu@gmail.com



■ 会員異動等

種類	氏名	旧所属	新(現)所属	備考
異動	滝川 千紘	富山県リハビリテーション病院	自宅	
異動	熊南 清夏	リハビリセンターあんじゅーる	にながわ光風苑	
異動	本保 恵介	独立行政法人 国立病院機構 富山病院	独立行政法人 国立病院機構 医王病院	
異動	山崎由起子	ケアホームなかそね	高岡整志会病院	
改姓	田中 有里		富山西リハビリテーション病院	旧姓 西田
退会	秋元 志帆	金沢医科大学水見市民病院		
退会	坂井 望	金沢医科大学水見市民病院		
退会	大房 賢五	済生会高岡病院	県外	
退会	鈴木 香織	ふるさと病院		
退会	田村 亮	富山県リハビリテーション病院 ・子ども支援センター		
退会	志村 雅美	ケアサークルこかげ ひばりデイサービス		
退会	右井 崇史		坂東病院	
退会	位寄 美幸		デイサービス くつろぎ日和	
新入会	上野 陽香		北陸中央病院	
新入会	大塚 菜弥		ゆうゆうハウス	
新入会	梶 直美		富山リハビリテーション医療福祉大学校	
新入会	片山 礼子		さくら苑	
新入会	金盛 美樹		富山県リハビリテーション病院 ・子ども支援センター 成人療法課	
新入会	近藤 美友		アルペンリハビリテーション病院	
新入会	笹嶋 杏奈		介護老人保健施設 きぼう	
新入会	島田 望		西能病院	
新入会	杉木 勇介		富山県済生会 高岡病院リハビリテーション療法部	
新入会	萩原 志穂		富山県済生会 高岡病院リハビリテーション療法部	
新入会	濱谷 有希		介護老人保健施設 みしま野苑一穂	
新入会	広清 諒河		常願寺病院	
新入会	松谷 美桜		介護老人保健施設 シルバーケア今泉	
新入会	松永 佳子		魚津老人保健施設	
新入会	松本 大生		杉野脳神経外科病院	
新入会	宮崎 真琴		富山リハビリテーション病院 ・子ども支援センター 成人療法課	
新入会	山本 洋輔		西能病院	

理事会

日時：平成31年4月15日(月) 19:00～

場所：谷野呉山病院

参加者：齋藤、松岡、島津、丸本、桐山、吉波、
松本、藤井、橋爪、吉村、森、渡邊、
能登、大平、

欠席：小倉氏

＜報告事項＞

1. 各種事業について

1-1. 精神保健福祉実現会議

- ・第4回設立準備委員会4月2日。堀口氏（谷野呉山病院）、齋藤出席。協力団体として10,000円の寄付了承。
- ・次回、5月7日。

1-2. その他会議・研修会など

- ・3月25日 地域リハビリテーション推進会議 齋藤会長出席。
- ・3月28日 社会福祉法人富山県精神保健福祉総会 平成30年度第2回評議員会、社員総会 齋藤出席。次回6月6日。

1-3. 富山県リハビリテーション専門職協議会

- ・前期研修会。6月23日 県総合体育センターにて開催予定。グループワークのコーディネーターとして、OT士会より齋藤会長他3名予定。
- ・PT士会と介護予防事業を合同開催予定。

2. 協会事業について

2-1. 47都道府県委員会

- ・4月13日・14日 齋藤、能登氏参加。

2-1. 生活行為工夫モデル事業

- ・2018年度富山が出来なかと問い合わせあり、協会担当より予算の都合上不可
- ・2019年度協会問い合わせあったが、6月に協会研修会あり不可。次年度以降検討。

2-3. 訪問リハビリ地域リーダー会議

- ・4月27～28日 山本典子氏出席予定（高重記念クリニック）

3. 各分会、委員会などより

3-1. 2019年度富山県作業療法学会

- ・学会長 高田尚美氏（市立砺波総合病院）。
- 2020年2月23日砺波文化会館（予定）

3-2. 2020年度東海北陸作業療法学会

- ・2020年度ブロック学会に、OT協会枠（3つ程度を協会予算）。了承。

3-3. その他

- ・協会から後援等についての注意喚起

- ・協会より学童保育への対応について：協会としては特別支援教育を優先

＜検討事項＞

1. 各種事業について

- 1-1. 高岡市医師会在宅医療連携協議会委員
・今年度の委員として森氏（厚生連高岡病院）推薦。5月15日開催予定。
- 1-2. 富山県社会福祉推進関係者2019交歓の集い
・4月25日 県士会パンフレットを配布予定。齋藤会長情報交換会参加。
- 1-3. 南砺市医師会事例検討会
・南砺市訪問看護ステーション 神野氏から石崎氏に変更。
・窓口担当を決め、ローテーションにて参加も可能
- 1-4. 地域アドバイザー委員会より
・県士会ホームページを活用した活動報告を検討中。

2. 各分会、委員会などより

- 1-1. 平成30年度事業報告、平成31年度事業案の検討。

3. その他

- ・ホームページの活用方法を含め、広報や災害時の連絡の方法を担当の塚田氏と検討。
- ・自宅会員への連絡を、同意が得られれば、メールなどで配信する。

理事会

場所：谷野呉山病院

日時：令和元年5月14日(火) 19:00～

参加者：齋藤、松岡、島津、丸本、吉波、藤井、
吉村、森、渡邊、能登、大平、

欠席：橋爪、桐山、松本

＜報告事項＞

1. 各種事業について

1-1. 精神保健福祉実現会議

- ・5月7日 堀口氏（谷野呉山病院）出席。寄付金10,000円了承。

1-2. 富山県社会福祉推進関係者2019交歓の集い

- ・4月25日 齋藤会長出席。県士会パンフレット、マップを配布。次年度も同様の対応。

2. 協会事業について

2-1. ロボット事業について

- ・協議会委員長、齋藤会長、事務担当 渡邊理事。
5月29日 金沢にて説明会出席。



“歩く”

歩きやすさを追求した靴・インソール

快適に!

“聴く”

聞こえの世界が広がる補聴器



(株)富山県義肢製作所 / 富山県補聴器センター

〒930-0042 富山市泉町1-2-16 TEL 076-425-4279 FAX 076-425-4587

E-mail t-gishi@cronos.ocn.ne.jp URL <http://www.tpo-morita.com>



介護保険対応! ベッド・車椅子・レンタル!

車椅子

→ 480円より

ベッド

→ 700円より

リーズナブル



株式会社 ウィル

TEL (0766) 56-7099

FAX 56-3395



賛助会員名簿 (順不同)

会員名(代表者)	住 所
富山医療福祉専門学校 (学校長 長谷川 成樹)	〒936-0023 滑川市柳原149-9 TEL 076-476-0001
学校法人金城学園 金城大学 医療健康学部 (理事長 加藤 真一)	〒924-8511 石川県白山市笠間町1200 TEL 076-276-4400
医療法人社団いずみ会 温泉リハビリテーション いま泉病院 (理事長 大西 仙泰)	〒939-8075 富山市今泉220 TEL 076-425-1166
株式会社 ウィル (代表取締役 黒田 勉)	〒939-0311 射水市黒河3075 TEL 0766-56-7099
富山リハビリテーション 医療福祉大学校 (校長 青池 浩生)	〒930-0083 富山市総曲輪4丁目4番5号 TEL 076-491-1177
株式会社 富山県義肢製作所 富山県補聴器センター (代表取締役 森田 忠浩)	〒930-0042 富山市泉町1丁目2-16 TEL 076-425-4279

編集後記

平成も終わり、令和がスタートしました。今年でOTとして働き始めて2年目となります。後輩が出来たことにより、自分の立場が少しずつ変化していることを痛感させられています。今年度は2年目であることを自覚し、成長できる1年にしていきたいと思います。 C. K

- 2-1. 特別支援教育での実践に関わる情報交換会後の活動について
- アンケート調査の依頼あり。山部長へ回答依頼。
- 2-3. 訪問リハビリ地域リーダー会議
- 4月27~28日 山本典子氏(高重記念クリニック)出席
3. 各部会、委員会などより
- 3-1. 2019年度富山県作業療法学会
- 砺波地区各担当者決定。抄録システム稼働に向けて打ち合わせ。講師陣内諾済。
- 3-2. 2020年度東海北陸作業療法学会
- 講師陣、計画はこれまでを踏襲
 - 7月28日 2020東海北陸、2019県学会合同研修会開催予定。桐山氏、大平氏、吉野氏、磯邊氏に講師依頼済。
 - 11月16日17日静岡東海北陸学会に参加し宣伝

《検討事項》

1. 各種事業について
- 1-1. 福祉用具サービス計画書作成研修
- 作業療法士2名の派遣依頼があり、桐山氏、吉波氏へ依頼
2. 協会事業について
- 2-1. MTDLP士会連携推進連絡会議
- 8月25日(日) 10時30分~16時 大阪 藤井暁子氏(富山医療福祉専門学校)出席。
3. 各部会、委員会などより
- 3-1. ホームページの活用と円滑な連絡手段の検討について
- 6月総会後にホームページ担当塚田氏よりMLやGoogle Form等の活用について説明予定
- 3-2. 平成30年度事業報告、平成31年度事業案等
- 事業報告を正確に把握するために、各部長から局長への流れを徹底。
 - 副会長を1名から3名以内の定款変更の議案提出。
 - 教育局を生涯教育部、MTDLP研修部の2部構成とするなどの組織図変更
4. その他
- 4-1. 各種外部からの表彰者
- 選定について3役で検討中
- 4-2. 研修会の後援依頼について
- 一部、公益性(出席予定者等)や県士会后援の有益性について確認し、再度審議
- 4-3. 高校生体験会 7月21日(日)呉西地区 森理事、藤井理事 8月18日(日)呉東地区 能登理事、渡邊理事

